

経営と健康



運は天にあり、手柄は足にある

戦国武将に学ぶ運の法則(下)

講談師 一龍齋貞花

誰でも一度はチャンスがあるという。

それをつかむかどうかだという。

私など一度ならずあったが、つかみそこね今に至っている。

運が無いとこぼしている方は、気が付かずチャンスを逃しているのではなからうか。

逃げの信長

桶狭間合戦勝利で、いけいけの感が強いが、大雷雨という運によって強敵今川義元を倒すことが出来た。

多くの戦いに逃げ、逃げの信長といわれ、最大の危機朝倉攻めの時、朝倉と浅井に挟み撃ちにあい、這々の体で逃げる途中狙撃されたが運よく助かった。次の戦いでも狙撃されている。その後、ライバルの信玄、謙信が亡くなり、天下人

への道を突き進むことの出来た運。

ただ、明智光秀の謀叛の時ばかりは逃げる事が出来ず運が尽きてしまった。

秀吉のつかんだ運

朝倉攻めで、挟み撃ちにあった時、「私が殿軍を務めます」と、悪くすれば命を捨てることになるかもしれないが、無事信長を逃したことで運をつかみ、信長が死んだ時後継者信忠が戦死、二男三男は光秀が恐くてオロオロ、これが最大の運。光秀を、柴田勝家を倒し、運をガツチリつかんで天下人へ。優秀な信忠が生きていれば後継者は信忠になったであろう。勿論重臣たちを味方にした働きもあったが、後継者信忠の死は最高の運であったと思う。

窮地度々の家康

大難戦といわれた三方ヶ原の合戦。這々の体で逃げ帰った浜松城、逆転の発想として書いてきたが、攻めてきたのが軍略に長けた武田信玄、軍を退いた上戦中で病死。いけいけの上杉謙信であったなら一気に攻め込まれ、徳川はここで滅びていただろう。

大坂夏の陣、真田幸村に攻め込まれ不意をくらいたく大慌てで逃げる。幸村孤軍奮闘戦い疲れ休んでいる処を討たれている。幸村が元氣一杯であつたら家康は討たれていたと思う。これこそ大きな運といえよう。

山内一豊「運を逃がすな」

「チャンスをつかむには、まず準備して運を逃がすな、決めたら迷うな総てをかけて未来へ進め」

妻千代がへそくりを出してくれたお陰で名馬を手に入れ、信長の目にとまり出世の糸口といわれているが、信長の朝倉攻めの時、殿軍の一人として、顔に刺さった射られ矢を抜いて、「続けっ」と家来を鼓舞した勇猛ぶり。

石田三成出兵の時、「私の掛川城を差し上げます」と言つて家康を喜ばせ、「チャンスをつかむには、まず準備して運を逃がすな」一豊のこの言葉は余り知られていません。

運をつかんで二国一城の主になった武将も少なくないが、簡単に失脚した大名も少なくない。驕りからか、展望を見誤り運を逃がしたためであろう。

川上貞奴、迫真の演技

武將ばかりではない。日本最初の女優川上貞奴、幼い時芸者置屋に引き取られて芸者になり、初代首相伊藤博文に最良になつたほどの美人で才女、芸達者。オッペケ節で有名な川上音二郎と結婚、音二郎一座がアメリカで興行女優が必要。当時日本では女性が舞台に立てず、歌舞伎で女形が務め今も続いている。しぶしぶ承知して「娘道成寺」に出演。最後の場面でバツタリ倒れたが、それがリアリティーに富んでいると大喝采、こうして大女優への道を。貞奴迫真の演技だったが、実は興行主に金を持ち逃げされ、音二郎と貞奴は公園で野宿、空腹の余り倒れたんで何が幸運となるか分からない。

野犬に襲われた時福沢諭吉の娘婿桃介に助けられ恋に落ちたが、音二郎と結婚し、ヨーロッパでも舞台に立ち世界的名女優に。音二郎が亡くなるや女優を引退しかつての恋人桃介と同棲。桃介の事業を援助したり、町中をアメリカ製のバイクに乗って走り廻つたという。昭和8年岐阜県各務原^{かみはら}に貞照寺を建立。昭和21年自ら建てた150坪の熱海の別荘で76歳で死去。

音二郎と結婚してアメリカの舞台に立たなかつたなら、世界的名女優となれなかつたであろうから、持つて生まれた運を発揮したに違いありません。

正に波乱万丈の生涯、NHK大河ドラマ「春の波濤」の主人公に。

(参考文献 ウィキペディア)

神様、松下幸之助翁

松下さんは、「何が起きても、自分は運がいい」と。このように受け止められる人は自然と運がよくなる。

石につまずいてすり傷を負つても、

「骨折しなかつたのは運がよかつた」と

と前向きに受け止められる人。自転車と路面電車と衝突事故に遭つたが、

「助かつた、運がいい」と思われたそう

うだ。20歳までに両親と兄弟全員を病で失い自身も肺病、「運が悪い」と思うのが普通だが、幸之助翁は、

「だから成功した。数々の失敗や、苦

い経験をしてきたが、振り返るとだからよかつた」と言われたという。

不屈の精神といえるが、プラス思考で

運を呼び込まれたのです。

幸之助翁のことを書かせて頂くことは恐れ多いのですが、電材企業の方々改

めて参考にして頂ければと書かせて頂きました。お許し下さい。

プロ野球選手で移籍や解雇された選手が、移転先でチャンスをつかみ活躍している選手が少なくない。かつてはお払い箱とヤル気を失う選手も少なくなかつた。強化のためのトレードは別にして、中日星野監督が中尾、大島、宇野という主力だった選手をトレード、「星野は冷たい」といわれたが、「中日にいたのでは出番がない、働けるところで」と送り出し、日ハムにトレードされた大島康徳選手は、2千本安打で名球界入り。そして監督、退団後NHKの解説者、勿論当人の頑張りがあつたがトレードされなかつたなら名球界入りも監督もななく、名古屋の放送局の解説者で終つていたかもしれない。働き場所のあるチームへ移籍されたことが最大の幸運だった。

移籍ではないが元中日山本昌広投手、体は大きいスピードが出ない。首を覚悟していると、星野監督はベロビーチキャンプが終了するや、「アメリカに残れ」ドジャース会長補佐アイク生原氏に山本を預けた。一人残された山本は見捨てられたと枕をぬらしたこともあつたが、アメリカに残された運が大きく好転。ス

クリューボールを会得したことで優勝争いの後半に呼び戻され、見事活躍し優勝に貢献。

その後星野監督に話を聞くと、

「なんとか男にしたいと思つてな。だがアメリカに残つたといえ必ず成功するわけじゃない。当人の努力、ヤル気次第、彼はその運をつかんだんだよ」と。

誰彼なくなぐつた訳でなく、目をかけている選手への愛のむち。山本投手は「二度もなぐられたことはありません」と。一人残した不憫さもさることながら、残したことに応え大働きしてくれたからであつたろうと思う。

「僕にとつて大きな幸運でした」と、22年間219勝の昌広さんは、星野監督、アイク生原さんを恩人と感謝。

少年野球チーム、身障者、孤児をナゴヤドームの全試合に招待もした。

上杉謙信は、「運は天にあり、手柄は足にある」(努力せよ)。さらに、

「死なんと戦えば生き、生きんとすれば必ず死するものなり」と。

運に気付くかどうか。アピールすることも大切。運はつかむものかもしれませんが。誰にも一度はチャンスがあるという。チャンス、運をつかみましょう。